

## 令和5年度「地域発 元気づくり支援金」事業実施結果(北信地域)

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
1	教育、文化の振興	ソフト	中野市立図書館開館30周年記念事業	中野市立図書館開館30周年記念事業実行委員会	<p>人口減少に加え、PC等の普及により図書館離れが進み、全国的に図書館の利用者減少が続く中で、令和5年6月に中野市立図書館が開館30周年の節目を迎えるのに合わせて、1年を通してイベントを行った。</p> <p>具体的には、おすすめの図書を紹介しあうビブリオバトルやメッセージを載せたしおりを作るイベント開催や、例年の図書館まつりに加え、2カ月連続図書館まつりを行うなど、本と触れ合う機会を住民に提供し、心豊かな生活を楽しむための生涯学習の拠点の場になるよう取り組んだ。</p> <p>①図書館まつり開催事業 (762)</p>	762,341	562,000	・開館30周年の節目に合わせて1年間を通してイベントを実施し、図書館と読書の魅力を伝え、利用者の増加につながった。
2	教育、文化の振興	ソフト	きのこの魅力発信事業	明日はきのこを食べようプロジェクト協議会	<p>中野市が日本一の生産量を誇るきのこであるが、地元企業では近年、就職希望者が減少し人手不足が進んでいる。</p> <p>そこで、消費拡大や認知度を高めるため、R4年度に続き、幼稚園児へのきのこほぐし体験・絵本配布、小学生のきのこ工場見学・栽培体験を行ったほか、きのこの消費量が低下する春夏のきのこの楽しみ方を提案するきのこフードフェスを開催した。</p> <p>①小学校児童へのきのこ食育事業 (536)、幼稚園、保育園への食育強化事業 (1,131)、周知活動きのこフードフェスイベント (369)</p>	2,039,246	1,586,000	・きのこ工場の見学等により、地域の産業や食材を体験的に学ぶ機会を提供した。

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
3	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	ネクストスポーツで地域をつなぐ事業	ネクストスポーツで地域を繋ぐ会	<p>老若男女問わず誰でも取り組める次世代スポーツを通じた地域活性化を目指して次世代スポーツの講習会や大会を行った。</p> <p>具体的には、センサーが内蔵され日本刀をイメージした「SASSEN刀」を手にして戦うSASSENやeスポーツ等の体験会等を開き、次世代スポーツの魅力を中野地域から発信した。幅広い世代と交流する機会を設けることで、世代を超えたコミュニケーションの機会を創出し、次世代スポーツを活かした地域活性化のモデルケースを目指した。</p> <p>①実践活動及び体験会（663）</p>	662,425	521,000	・体験会等の開催により、次世代スポーツを体験する機会を提供した。
4	保健、医療、福祉の充実	ソフト	子育て支援型の生鮮冷凍食品フードバンクと長丘こども食堂	信州こども食堂印SDGsプロジェクト	<p>長引く新型コロナウイルス感染症や物価高等の影響で、困窮世帯が増加傾向にある中で、生鮮食品の受け入れと提供を行うフードドライブ&amp;フードパントリーを毎月実施した。</p> <p>事業としては中野市内の施設に「冷凍コンテナ及び冷蔵コンテナ」を設置し、食材提供者と食材支援が必要な個人や子ども食堂取組団体等が活用できる地域の助け合い場を創出した。</p> <p>①冷蔵冷凍コンテナレンタル費（2,401）、広報費（733）</p>	3,135,030	2,506,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、フードドライブ及びフードパントリーを開催し、食料品を必要とする人に届けた。</li> <li>地域の子ども食堂との連携など、継続的な実施体制づくりには至らなかった。</li> </ul>
5	地域協働の推進	ハード	手づくり農村支援事業	中野市	<p>高齢化や後継者不足により、農作業負担が増加する農村地域で、負担軽減や効率化、地域協働による自立した基盤整備を推進するため、農道や用排水路の補修等に必要な材料支給や重機の提供の支援を行った。</p> <p>②農道舗装8箇所（6,527）、水路改修9箇所（4,091）</p>	10,619,240	5,000,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進む農村地域での作業の負担軽減や、作業意欲の向上が図られた。</li> <li>また、住民が自ら施行計画を立て協働作業を行ったことで、自立意識の涵養と愛着をもった維持管理につながった。</li> </ul>

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
6	農業振興	ハード	キッチントレーラーを活用した農業振興と地域プロモーション	一般社団法人信州いいやま観光局	<p>令和4年10月にリニューアルオープンした道の駅・花の駅千曲川にかけそばの提供を行うキッチントレーラーを設置して、信州のファストフードであるそばで観光客の胃袋と心を満たすとともに地元食のPRを行った。そばは、飯山市内の雪室で熟成したそば粉から製造された麺等を使い、そばの生産・消費拡大につなげるほか、キッチントレーラーの機動力を生かして各所のイベントに出向き、飯山の食をPRした。</p> <p>②キッチントレーラー購入費(5,897)、移動販売電源機材(570)</p>	6,468,360	4,423,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客が多く訪れる道の駅にキッチントレーラーを整備した。</li> <li>そばなど地域の特産品を継続的に発信する体制づくりに工夫の余地がある。</li> </ul>
7	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	地域住民と移住者の連携による「みらいの村」エリアマネジメント推進事業	一般社団法人未来社会推進機構	<p>飯山市の人口は2015年の21,438人から30年後(2045年)には10,617人にまで半減すると見込まれ、人口減少が大きな課題となっている。特に集落は存続や衰退にも直接つながることから、団体では、将来にわたり活気ある自治活動が維持できるようにエリアマネジメント事業を行った。</p> <p>事業では、住民へのアンケート等を通じて2050年の「集落の未来図」を作成し、移住者を見つけるサポート体制の構築や移住者が住める空き家の調査・発掘を行った。</p> <p>①印刷製本費(410)、ホームページ作成(176)、広告費(165)、謝金(70)、消耗品等(86)</p>	915,150	706,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年後を見据えた集落の未来図の作成や、地域活動を担う移住者を募集・支援する体制を整えることが出来た。</li> <li>地域社会の担い手確保の手法として、他の地域でも広がることが期待できる。</li> </ul>

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
8	教育、文化の振興	ソフト	かわまちづくり推進事業	千曲川北信5市町かわまちづくり推進協議会	千曲川の河川空間等を活用した広域観光の推進を図るために、R4年度から支援金を活用している2年目の事業。R5年度は引き続き、小学生とその保護者を対象とした川下りツアーを実施するほか、「千曲川利活用イメージ形成物語」を作成し、「日本一長い川＝大きな資源」を十分に活用し、地域の活性化を図った。  ①川下りツアー（431）、千曲川利活用イメージ形成物語印刷（528）	959,200	767,000	・川下りツアーに参加した児童等に、川に親しむ機会を提供した。 ・グリーンシーズンの新しい観光需要を掘り起こすため、観光関係者へ千曲川でのツアー実施を働きかけた。  ・グリーンシーズンの新たな観光資源となるよう観光関係者も川下りツアーに参加し、事業化の検討が始まった。
9	教育、文化の振興	ソフト・ハード	地元間伐材と古材を利用した活動拠点の整備による、林業・環境・建築・防災に関する課題解決と教育プログラムの実践～木材加工と内装・小屋裏造作～	特定非営利活動法人フォレスト工房もくり	森林の管理、森林資源の有効性等を学び林業に携わる人材の育成やゼロカーボンに向けた取組の推進を図るために、森林の生態や管理方法、伐木造材に関する講習会を実施した。また間伐材と古材を活用して活動拠点となる施設を信州大学の建築学科の学生を中心にして整備を進めていて、3年目のR5年度は床・壁張作業、階段設置を行った。  ①講師謝金、材木伐採講習会歳費等（1,397） ②大工工事、足場、雪よけシート等（1,658）	3,056,053	2,191,000	・大学生を対象として、地域の木材を使用した建築を体験的に学ぶ機会を提供した。 ・参加者の中には工務店に就職したり、林業に携わる者がおり、林業・木材産業への就業を促進することが期待できる。
10	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ハード	飯山のさつまいもによる元気な地域づくり事業（第2弾）	一般社団法人飯山そば振興研究会	研究会では遊休荒廃地を活用して雪室熟成そばを栽培しているが、そばの連作障害の回避するため、R4年度からサツマイモを輪作作物として栽培し、雪室そばに加えさつまいもの特産品化を進めている。 2年目となる今年度は、下高井農林高校と連携した商品開発に加え、生産拡大を見据え、いも収穫機等の導入により作業の効率化を図った。  ②ブルーモア（500）、いも収穫機（4,180）	4,680,000	3,510,000	・そばの連作障害対策、遊休荒廃地の解消、新たな特産品づくりを進めるため、サツマイモの栽培作業を一部機械化して、生産性を向上させた。 ・今後も持続的に栽培や商品開発を行うための実施体制に工夫の余地がある。

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
11	その他（産業の振興及び雇用の拡大）	ソフト	COME DISCOVER IYAMA 地域力発信！インバウンド向けプロモーション事業	飯山商工会議所	飯山市は冬に比べてグリーンシーズンのインバウンド需要は低く、観光資源を生かした外国人向けのPRが長年の課題であった。新型コロナの水際対策が大幅に緩和された昨今の状況を追い風に捉え、今後のインバウンド需要を喚起するため、春・夏の飯山市を満喫できるおすすめスポットを在住外国人が紹介する動画を制作した。また事業者がPR動画の制作について学ぶセミナーを実施し、インバウンド需用の復活と拡大に取り組んだ。  ①動画撮影制作費等（2,316）	2,316,800	1,789,000	・在住外国人の視点を入れて動画を作成し、飲食店、お祭り、文化など地域の魅力や楽しさを発信した。
12	特色ある観光地づくり	ハード	斑尾発進&発信E-BIKEとトレイルを活用した地域づくり事業	斑尾高原観光協会	密を避けて楽しめるアクティビティとしてサイクリングが注目を集める中で、斑尾高原では、起伏に富んだ環境を活かしたグラベルバイクの国際的なイベントが開催されるなど、サイクリングが新たな観光コンテンツとして確立し始めている。 一層の普及を図るため、初心者や家族連れでも乗りやすいE-BIKEを導入し、レンタル事業を行うほか、トレイルコースをサイクリングでも走行できるように整備し、グリーンシーズンの誘客を推進した。  ②E-BIKE 5 台購入費（1,554）	1,554,410	1,165,000	・小柄な人や子どもでも乗れるE-BIKEを整備したことで、女性やファミリー層など新たな利用者を開拓した。 ・ファミリーから上級者まで多様なニーズに応えられる環境づくり（コース整備）を進めており、発展が期待できる。
13	地域協働の推進	ハード	協働のむらづくり事業	飯山市	住民と市が協働して農道や林道、農業用水路等を整備することで、農林業の生産性を高めた。また協働作業を通じて住民同士の交流や連帯を図ることで、地域活性化につながった。事業では、必要な材料支給や重機の提供の支援を行った。  ②水路改修14箇所、農道舗装9箇所、林道舗装2箇所、施設内環境整備3箇所（7,716）	7,716,551	4,887,000	・高齢化が進む農村地域での作業の負担軽減や、作業意欲の向上が図られた。 ・また、住民が自ら施行計画を立て協働作業を行ったことで、自立意識の涵養と愛着をもった維持管理につながった。

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
14	特色ある観光地づくり	ソフト	北志賀そばパスタの商品開発・普及事業	北志賀高原観光協会	山ノ内町は観光と農業が主な産業であるが、北志賀の「須賀川そば」は人気が高く、観光客に人気の出る新メニューの開発が急務であった。R4年度は北志賀そばドレッシングの開発等を行ったが、R5年度は下高井農林高校と連携してそばパスタの新メニューを開発するほか、町内イベントへの出展やそばパスタ試食会を行い、ツーリズム商品として観光誘致につなげた。  ①北志賀そば料理研究会（286）、石川県での試食会（187）、新そばまつりの北志賀そばパスタ試食会（143）、下高井農林高校のそばパスタ商品開発（55）	671,000	536,000	・町内産のそばを使った新メニューや新商品を開発し、町内外のイベントや試食会により地域の魅力を発信した。 ・新メニュー取扱店の増加には工夫の余地がある。
15	特色ある観光地づくり	ソフト	ONSEN・ガストロノミーウォーキング in スノーモンキータウン事業	スノーモンキーONSEN・ガストロノミーウォーキング実行委員会	湯田中渋温泉郷の魅力を発信し、入込増を図るために、10月21日に「めぐる」、「たべる」、「つかる」をテーマに約8kmの温泉街を巡りながら農産物、畜産品、加工品に加え地酒等をふるまうガストロノミーウォーキングのイベントを実施し、134人が参加した。開湯1,300年余りの温泉と北信地域の食のPRや、県内におけるONSEN・ガストロノミーウォーキングの浸透を図った。  ①PR経費、イベント運営費等（3,939）	3,939,109	2,456,000	・ウォーキングと町内産の食材・地酒を組み合わせ、温泉街の新しい楽しみ方を提案し、参加者から高い満足を得た。 ・イベントを契機としたグリーンシーズンの誘客促進や、リピーターを飽きさせないコース設定に取り組んだ。
16	特色ある観光地づくり	ソフト	志賀高原ヒルクライム	志賀高原ヒルクライム実行委員会	志賀高原を縦断する国道292号は、標高約500mの湯田中渋温泉郷と標高2200mを越す渋峠を結び、日本国道最高地点を有する国内有数の山岳道路である。 旅行者のニーズが多様化する中、自転車を活用した自然に負担をかけない旅行形態が求められており、コロナ禍における自然を活用した旅行商品を造成する必要がある。国立公園内の自然に負担をかけないサイクルツーリズムの振興を図るため、志賀高原ヒルクライムイベントを開催した。  ①イベント運営費（1,039）、会場運営（2,364）、スタッフ経費（602）、通行規制（1,416）、事務費（6）	5,154,807	3,156,000	・参加者の8割が大会前後で志賀高原内に宿泊したり、ゴールで地元そば等の提供により、観光や農業等への波及効果があった。 ・参加者の90%が満足しており、サイクリストへの情報の拡散が期待される。 ・宿泊施設でのバイクラック整備が進み、受入れ環境が向上した。



整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
17	特色ある観光地づくり	ソフト	インバウンドの聖地山ノ内町での外国語実践研修&人材育成事業	一般社団法人観光教育・インターンシップセンター	<p>湯田中温泉、志賀高原という一大観光地を抱える山ノ内町では、旅館業の人手・人材不足が進んでいる。期間従業員等の派遣で対応している事業者も多く、地域や山ノ内町を愛し、将来を担う人材育成が急務である。</p> <p>この課題解決のため、高校生、専門学校生及び大学生を対象に、座学、現地研修を行い、仕事の理解と就業促進につなげた。またR5年度は外国人客の対応を学生が行う外国語実践研修を行い、留学せずとも外国語が身につく機会を生み出し、人材確保と教育のマッチアップを図った。</p> <p>①講師代(405)、講師宿泊費(165)、アクティビティ費(696)、募集HP制作費(103)</p>	1,369,985	977,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した学生の25%が観光業に就職するなどインターンシップを通し観光業への理解が進んだ。</li> <li>・人口減少により人材確保が困難になる中、全県での事業展開が期待できる。</li> </ul>
18	地域協働の推進	ハード	地域協働で農林業に活力を与えるための施設整備	山ノ内町	<p>高齢化や後継者不足により、農林業の経営は困難な状況に置かれ、負担軽減や効率化を図る上で、農林業に欠かさない農道、林道及び農業用水路の整備は急務である。地域で実施される農道や用排水路の補修等の協働活動のために、必要な材料支給や重機の提供の支援することで、住民の交流や地域のつながりの強化を目指した。</p> <p>②水路改修2箇所(2,205)、林道舗装1箇所(672)</p>	2,882,240	1,441,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進む農村地域での作業の負担軽減や、作業意欲の向上が図られた。</li> <li>・また、住民が自ら施行計画を立て協働作業を行ったことで、自立意識の涵養と愛着をもった維持管理につながった。</li> </ul>
19	特色ある観光地づくり	ソフト・ハード	本沢川登山道整備・里山トレイル案内アプリ開発事業	奥信濃100実行委員会	<p>実行委員会ではR3年度より本沢川登山道を整備し、そこをコースの一部としたトレイルランニングのレースやツアーを実施している。レースの出走者数はR3が約500人、R4が約1,000人と右肩上がり、古道や林道を走れるコースは人気を博している。</p> <p>さらにライトアウトドア層や女性・若者を取り込むため、ルートや周辺情報を紹介する里山トレイル案内Webサイトを開発したほか、登山道に木橋を設置して、アクセスしやすくして、地域資源を生かして誘客を図った。</p> <p>①アプリ開発(480) ②山道橋架設工事(700)</p>	1,181,149	909,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木橋の整備により、登山道の安全性が向上した。</li> <li>・登山道の整備ボランティアに前年度比3倍以上の51人が参加し、登山道整備への参加意識の醸成に寄与した。</li> </ul>

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
20	特色ある観光地づくり	ソフト	野沢温泉スキークラブ創立100周年記念事業	野沢温泉スキークラブ	野沢温泉村は古くから温泉とスキーの村として知られ、バブル期には利用客が年間100万人を超えた、全国有数のスキーリゾートである。ただ近年はスキー離れが進んだことや、グリーンシーズンのイベントが停滞していることから、スキークラブ100周年を迎えるR5年度に、100周年祭の開催のほか、夏から秋にかけローラースキーやクロスカントリーの大会を開催して、年間を通じたスポーツによる地域振興を図った。  ①デジタルコンテンツ制作(4,400)、記念式典(244)、ローラースキー大会(1,103)、クロスカントリー大会(347)、100周年祭(760)	7,493,498	3,968,000	・スキークラブ100年の歴史をデジタルコンテンツとしてまとめたことで、継続的な情報発信が可能となった。 ・記念式典や関連スポーツ大会の開催により、村の認知拡大やグリーンシーズンの集客、地域への愛着の醸成につながった。
21	特色ある観光地づくり	ソフト	新・湯治 NOZAWA ONSEN Stay 【養生食発展事業】	一般社団法人野沢温泉観光協会	日本で唯一、自治体名に「温泉」が付く野沢温泉村。年間3万人訪れたインバウンド需要の急減に伴い温泉を活かした新たなコンテンツ作りが課題となっている。課題解決のため、R4年度より「新・湯治」による滞在型の宿泊スタイルを提案し、養生食の講座行っていて、R5年度は、東洋医学(漢方)の考え方を取り入れ、メニュー開発や講習会を行った。  ①講習会開催(1,194)	1,193,510	954,000	・東洋医学(漢方)の考え方を取り入れ、村内宿泊施設に提案した。 ・「養生食」を取り扱う宿泊施設の増加には工夫の余地がある。
22	地域協働の推進	ハード	手づくり農林道路盤整備事業	野沢温泉村	農地・林地の荒廃を防ぐため、地元住民が互いに協力し必要な林道舗装等を行い、農作業の効率化と生産意欲の向上、林業振興を図った。  ②農林道舗装2箇所(606)	605,825	403,000	・高齢化が進む農村地域での作業の負担軽減や、作業意欲の向上が図られた。 ・また住民が自ら施行計画を立て舗装などの工事等を行うことにより、自立意識の醸成が図られた。



整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち 支援金額	
23	農業振興	ハード	スマート農業推進事業	極野区	<p>高齢化が進む中山間地の多くでは、耕作放棄地が増えて、担い手の確保等が課題となっている。極野区では、水田を維持するため、苗代の共同購入など負担軽減と効率化を図っている。さらに共同化を図るため肥料・除草剤散布用のドローン1台を購入して、作業の効率化を図るとともに、水田の維持、米の品質向上に取り組んだ。</p> <p>②ドローン本体(1,199)、バッテリー(1,175)</p>	2,374,625	1,780,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローン導入により、肥料等の散布が省力化・効率化した。</li> <li>・ドローンの導入・共同運用を通じて、農家間の情報交換・交流の促進、自立意識が醸成された。</li> </ul>
24	特色ある観光地づくり	ソフト	広域サイクリング観光推進事業	広域サイクリンググループ研究会	<p>密を避け、気軽にしめるとして人気が高まるサイクリング観光やポタリングを、栄村と隣接する十日町市、津南町の観光協会が連携して、普及を目指す2年目の事業。</p> <p>R5年度は、サイクリングYoutuberが地域を走る自転車巡りや食事、自然を楽しむ様子を撮影したPR動画を作成したほか、SNSキャンペーン等の実施により、利用者の拡大を図った。</p> <p>①PR事業動画作成・SNSキャンペーン等(545)</p>	544,381	420,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画作成、乗り捨てサービス、SNSキャンペーンで認知拡大を図ったが、実際の利用に結び付けるには工夫の余地がある。</li> </ul>
25	特色ある観光地づくり	ソフト	雪国たべごと推進事業	雪国たべごと研究室	<p>マタギ、山菜など独自の文化が色濃く残る長野県の最北地・栄村秋山郷だが、高齢化や生活様式の変容により、知恵や食文化・技術が失われていく状況にある。そこで、秋山マタギについて語り合うトークイベントや山菜採取ツアーを盛り込んだ料理教室行うなど、秋山郷の魅力の再発見し、移住や関係人口の増加に取り組んだ。</p> <p>①マタギイベント・料理教室等(2,430)</p>	2,429,340	1,575,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜やきのこの採取から調理までを学ぶ料理教室の参加者50人のうち、47人は北信地域外からの参加者で、秋山郷や北信地域の食文化を広く発信する機会となった。</li> </ul>

整理番号	主事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 ①：ソフト事業 ②：ハード事業 (単位：千円)	事業費 (単位：円)		講評
						総事業費	うち支援金額	
26	特色ある観光地づくり	ソフト	秋山郷サステイナブルツーリズム事業	サステイナブルツーリズム秋山郷実行委員会	<p>長野・新潟両県に位置する秋山郷の観光振興を図るために、R4年度から遊休施設等を改修して拠点施設を整備するとともに、初夏から秋頃までに秋山郷内を巡る着地型観光ツアーの開催している。</p> <p>R5年度は、ツアーの開催や情報発信を行い、引き続きサステイナブルの視点から、食を通して自然環境を知り、食料廃棄問題など、学ぶツーリズムの推進を図った。</p> <p>①着地型観光ツアー開催費（320）、ツアー宣伝費（168）</p>	488,000	336,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー参加者には高評価であり、秋山郷の食文化等の魅力発信につながった。</li> <li>・より多くの参加者に秋山郷の食文化を伝えるため、ツアーの開催時期や回数などに工夫の余地がある。</li> </ul>
27	地域協働の推進	ハード	農地等国土保全事業	栄村	<p>農業従事者の高齢化が進む中、農業用施設の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により改修が必要な農道及び用排水路等について、村が原材料等を支給した。</p> <p>②道整備3地区及び水路整備9地区（3,851）</p>	3,851,320	2,053,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進む農村地域での作業の負担軽減や、作業意欲の向上が図られた。</li> <li>・また、住民が自ら施行計画を立て協働作業を行ったことで、自立意識の涵養と愛着をもった維持管理につながった。</li> </ul>
合計（27事業）						79,063,595	50,577,000	